

日 本 史

第 1 問

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。解答は、解答用紙(イ)の欄に記入しなさい。

- (1) 607 年に小野妹子が遣隋使として「日出づる処の天子」にはじまる国書を提出したが、煬帝は無礼として悦ば^{よろこ}なかった。翌年再び隋に向かう妹子に託された国書は「東の天皇、^{つつし}敬みて西の皇帝に^{もう}白す」に改められた。推古朝に天皇号が考え出されたとする説も有力である。
- (2) 659 年に派遣された遣唐使は、唐の政府に「来年に海東の政(軍事行動のこと)がある」と言われ、1 年以上帰国が許されなかった。669 年に派遣された遣唐使は、唐の記録には高句麗平定を賀するものだったと記されている。
- (3) 30 年の空白をおいて派遣された 702 年の遣唐使は、それまでの「倭」に代えて「日本」という新たな国号を唐に認めてもらうことが使命の一つだったらしい。8 世紀には遣唐使は 20 年に 1 度朝貢する約束を結んでいたと考えられる。
- (4) 717 年の遣唐使で唐に渡った吉備真備と玄昉は、それぞれ中国滞在中に儒教や音楽などに関する膨大な書籍や当時最新の仏教経典を収集し、次の 733 年の遣唐使と共に帰国し、日本にもたらした。

設 問

7・8 世紀の遣隋使・遣唐使は、東アジア情勢の変化に対応してその性格も変わった。その果たした役割や意義を、時期区分しながら、6 行以内で説明しなさい。

第 2 問

豊臣秀吉が戦乱の世をしずめ、全国統一を実現したことにかかわる次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A～Cに答えなさい。解答は、解答用紙(ロ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 1585 年、秀吉は九州地方の大名島津氏に、次のような趣旨の文書を送った。
「勅命に基づいて書き送る。九州でいまだに戦乱が続いているのは良くないことである。国や郡の境目争いについては、双方の言い分を聴取して、追って決定する。まず敵も味方も戦いをやめよというのが勸諭である。もしこれに応じなければ、直ちに成敗するであろう。」
- (2) 1586 年、島津氏は、「関白殿から戦いをやめるように言われたが、境を接する大友氏から攻撃を受けているので、それなりの防戦をせざるを得ない」と回答した。
- (3) 1587 年、島津氏は秀吉の攻撃を受けたが、まもなく降伏した。一方、中国地方の大名毛利氏は、早くから秀吉に協力した。秀吉は島津氏に薩摩国・大隅国などを、毛利氏に安芸国・備後国・石見国などを、それぞれ領地として与えた。
- (4) 1592 年に始まる朝鮮出兵では、島津氏も毛利氏も、与えられた領地に応じた軍勢を出すように命じられた。

設 問

- A 秀吉は、戦乱の原因をどのようにとらえ、その解決のためにどのような方針でのぞんだか。3行以内で述べなさい。
- B 秀吉は、自身の命令を正当化するために、どのような地位と論理を用いたか。1行以内で述べなさい。
- C 秀吉による全国統一には、鎌倉幕府以来の武士社会における結合の原理に基づく面がある。秀吉はどのようにして諸大名を従えたか。2行以内で述べなさい。

第 3 問

江戸時代の日中関係にかかわる次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 幕府は、1639年にポルトガル船の来航を禁止するに際して、主要な輸入品であった中国産品が他のルートによって確保できるかどうか、慎重な検討を重ねていた。
- (2) 幕府は、1685年に長崎での毎年の貿易総額を定め、1715年には、銅の輸出量にも上限を設けた。
- (3) 中国書籍は長崎に着くと、キリスト教に関係がないか調査された後、商人たちの手により全国に販売された。
- (4) 長崎には、黄檗宗を広めた隠元隆琦ばかりでなく、医術・詩文・絵画・書道などに通じた人物が、中国からしばしば来航していた。

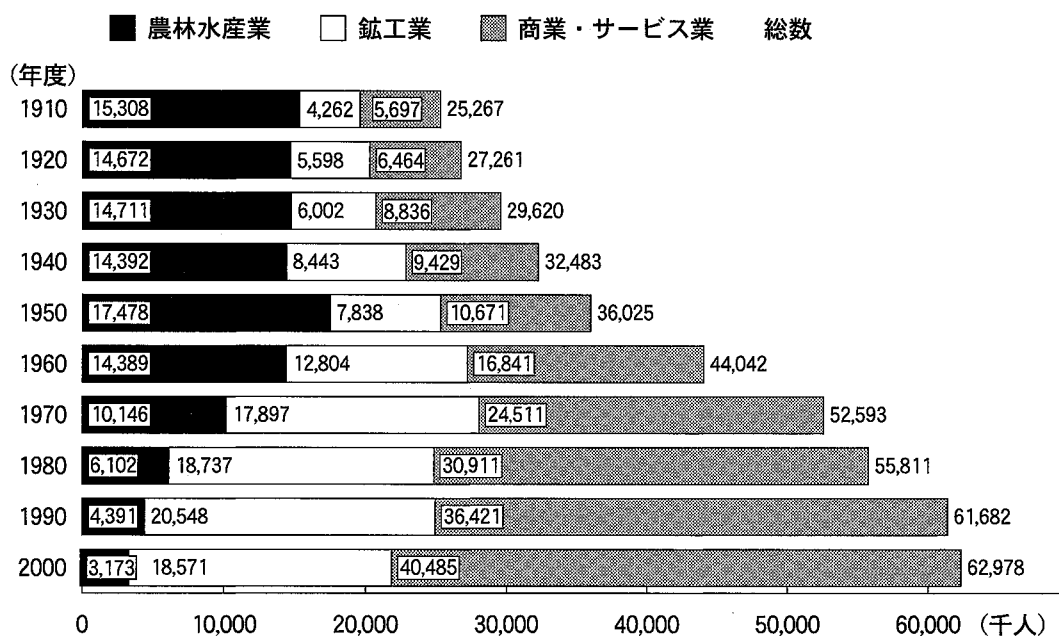
設 問

A (1)の時期と(2)の時期以降とでは、中国との貿易品にどのような変化があったか。国内産業への影響も含め、3行以内で述べなさい。

B 江戸時代の中国からの文化の流入には、どのような特徴があるか。2行以内で述べなさい。

第 4 問

次の図は日本における産業別 15 歳以上就業者数の推移を示したものである。この図を手がかりとして、下記の設問に答えなさい。解答は、解答用紙(二)の欄に記入しなさい。



図

1920 年度以降は『国勢調査』，1910 年度は『労働力(長期経済統計 2)』の大川推計による。

1920 年度以降の総数は分類不能の産業を含む。

設 問

高度経済成長期以降の農村では、機械化や農薬の利用によって省力化が進み、農業就業者が急激に減り、現在では後継者の確保や集落の維持が困難な例が生じている。昭和恐慌の際にも、現在とは異なる「農村の危機」が問題となっていたが、その内容と背景を、5行以内で述べなさい。なお、解答には、下に示した語句を一度は用い、使用した語句には必ず下線を引きなさい。

失業者 農村人口 米価 養蚕